

巻頭言

かがわ総合リハビリテーションセンター雑誌第6号を発行できましたことを大変喜ばしく思います。センター雑誌は、毎年開催している当センターの研究発表会での報告や各種の学会、研究会での発表を基に論文としてまとめたものです。

今回の第6号は、21題の投稿からなり、その内訳は、診療部から4題、リハビリテーション部から7題、看護・療育部から5題、地域生活支援部から5題となっています。

その内容を概括すると、まず診療部の丸尾智子先生の「機能的MRI(functional MRI)～MRIで脳の機能はどこまでわかるのか?～」は、近年急速に進みつつある「機能的MRI」の研究の動向と将来の可能性について、先生の20年にわたる臨床経験も踏まえて考察する大変興味深い論文です。河井信行先生の「脳外傷後の高齢者における長期集学的リハビリテーションの効果～Functional Independence Measureによる評価～」では、高齢の脳外傷患者に対するリハビリテーションの効果が他の年齢層の患者と同程度に得られることが示されており、高齢化社会における当センターの役割を考えるうえで大変貴重な内容となっています。障害者歯科センターからの報告には、香川大学医学部歯科口腔外科学講座教授の三宅実先生にご参加いただいています。

リハビリテーション部のうち6題は、当センターで実施されたリハビリテーションを通じて得られたそれぞれの課題について、症例の観察やデータ分析等を行ったうえで考察したもので、今後のリハビリテーションの効果を高めるうえで有意義な内容だと思います。また、看護・療育部との共同の「コロナ禍における当院の退院支援」では、新型コロナウイルスの感染防止対策として行わざるを得なかったご家族との面会の制限や家庭訪問の中止の影響をできるだけ抑えるため、IT機器の活用等により工夫して行った様々な取組みが報告されています。

看護・療育部の「回復期リハビリテーション病棟に入院した重症患者に対する生活行動回復看護の効果」は、実際の症例において生活行動回復看護の効果を検証したもので、他の4題は、各病棟において設定したそれぞれのテーマについての看護師の意識や行動を分析したものです。

地域生活支援部のうち成人支援施設の2題は、機能訓練と生活訓練の一体的な運営を目指したプログラムの再編とその成果についての報告と、自立訓練、就労移行支援を通しての一貫した支援が一般企業への就職につながった事例の報告であり、福祉センターの3題は、それぞれのセクションにおいて実施した実態調査についての報告です。

いずれの論文も、当センターの職員がそれぞれの業務を進める中で、重要だと思ったこと、疑問に感じたことについて、事例の観察やデータの分析、文献調査等を行ったうえで、論文として取りまとめたものであり、今後の当センターのよりよい業務運営に役立つものであると同時に、このような取組み自体が、当センターの機能強化につながっていくのではないかと思います。

研究にご協力をいただいた利用者様やご家族の皆様には感謝申し上げますとともに、関係機関や関係者の皆様には、ご一読のうえ当センターについての理解を深めていただければ幸いです。

令和4年12月

かがわ総合リハビリテーションセンター センター長 松尾 恭成